

医療法人社団ゆずりは 永田外科胃腸内科
永田靖彦

「西東京市における胃がんリスク検診」
-導入5年間における成績と諸課題-

当市では平成23年度より胃がんリスク検診を医師会事業として導入致しました。次年度で導入5年目をむかえ、現在は市の事業に移行しております。運用の結果、市内での胃がん検診の状況は劇的に好転いたしました。初回二年間の導入では約60例（従来の胃がんバリウム検診のおよそ10倍値）と極めて多くの胃がんを発見し、現在でも高い発見率を維持しております。中でも早期胃がんの占める割合が多く、受診者の救命、費用対効果の上でも大きな効果を上げており、当検診の高いポテンシャルを示しております。一方、導入から運用までの行程では、種々の課題や工夫を要し、行政との協力の上で適時改善を行いながら運用をしております。今回は、検診成績を含め要点を述べさせていただきます。

また、当方が委員をする東京都医師会公衆衛生委員会では、胃がんリスク検診の都内全域への普及を目指し平成25年より活動を始めております。今後、我が国では、胃対策型内視鏡検診が導入されますが、運用には極めて高いハードルがありすでに大きな問題点となりつつあります。したがって、いましてABC検診の位置づけがますます重要となることが想定され、目下運用の工夫を検討しており合わせてご紹介いたします。